

市民文芸

短歌 令和四年度阿南市文化祭秋季短歌誌上大会選

市長賞 宿痾もつ孫との二人暮らしには差す日
やさしも秋が居座る 勢井 恒子

議長賞 撓うほど竿にかけられ出番待つ夏の夜
明けのウエットスーツ 浅海 弥生

教育長賞 杳き日に「白佛言」と書きし日の剪
の面影しきりと浮かぶ 佐々木夫美

教育長賞 おさな子は通園バスに置き去りに空
の水筒命の悲鳴 原 美智子

秀作 独り言いいて終れり吾の愚痴聞きくれる
人なしそれも亦よし 勢井 恒子

秀作 盆の宵に勝手口よりちらしずし持ちくれ
し亡姉今も待ちおり 棚野 久子

秀作・互選賞第二位 コンバイン採算などはケセラ
セラ粉飲み藁吐き堂々進む 西崎まき子

秀作 椎の花ふりしく山家に車止め五十年商い
きたる我が道思う 井上 正恵

互選賞第一位 踏んばりて踏んばりぬいて老夫
婦盆の炎天稻刈り終える 高尾 久枝

互選賞同点二位 無意識の母ははつきり「ありがと
う」我も言えるか最期の一言 吉形 和恵

俳句 第五十二回阿南市文化祭誌上俳句大会選

市長賞 ざくざくと鎌首軽し豊の秋
議長賞 先生が一番うしろ花野行く
教育長賞 しなやかに風を躲して花芒
俳連賞 田木 勲

暮れ残る山家の軒や唐辛子
天高し少年剣士一礼す 青木 慧
語部の吐き出すおもひ長崎忌 神野千鶴子
今年米先ず病む友へ送りけり 庄野 早苗
秋深し色鉛筆の赤の減り 中野 郁子
清貧に生きた父母曼珠沙華 長楽 健司
今年米あまた積み込む郵便車 山野 賢治
秋風や古き我が家の染み天井 田中 栄子
桐一葉笑む写し絵の献花台 神原 鹿子
芳しき匂ひ湧き立つ刈田かな 近藤 まい
三姉妹すこやかに老い稲の秋 中川よし子
白雲を川面に流し秋の風 谷中喜代子

川柳 阿南川柳会 選

治癒願ひ感謝をしつつ玉子粥
のんびりと生きる我が身を労わつて 篠原 良子
誰にまで言ったか忘れ内緒ごと 田上 鶴子
ゆくゆくは金の卵となる器 高木 旬笑
妻寝言負けるものかと軒かく 多田紀久代
一休みし妻のメモるまま動く 西田 修身
花愛でる心いつしか風いでいる 原 公美子
一般応募 持木 寿栄
朝昼晩薬を前に食事する 秋川 和子
喜怒哀楽ゆるりゆるりと越えた皴 島尾美津子
二三回人生あれば抜かりなく 武田 敏子

漢詩 阿南漢詩研究会・青松吟社 選

新年偶吟 増喜 泰典
周甲皆新迎歲時
南窗已馥早梅枝
守貧白屋猶如昨
引暖條風上鬢絲
※周甲一千支の一巡

初春偶成 谷口田鶴子
先聞梅信草堂春
輕暖輕寒鳥語頻
八十五齡清筆硯
回來玉曆誓心新
先ず梅信を聞く 草堂の春
輕暖輕寒 鳥語頻りなり
八十五齡 筆硯を清め
回り來たる玉曆 誓心新たり

新年感有り 市田 嘉則
癸卯回星年改期
馬齡加一感懷滋
仁風敬老恩波洽
報謝胸中先托詩
癸卯 回星 年改まるの期
馬齡 一を加えて 感懷滋し
仁風 敬老 恩波 洽し
報謝の胸中 先ず詩に托す

